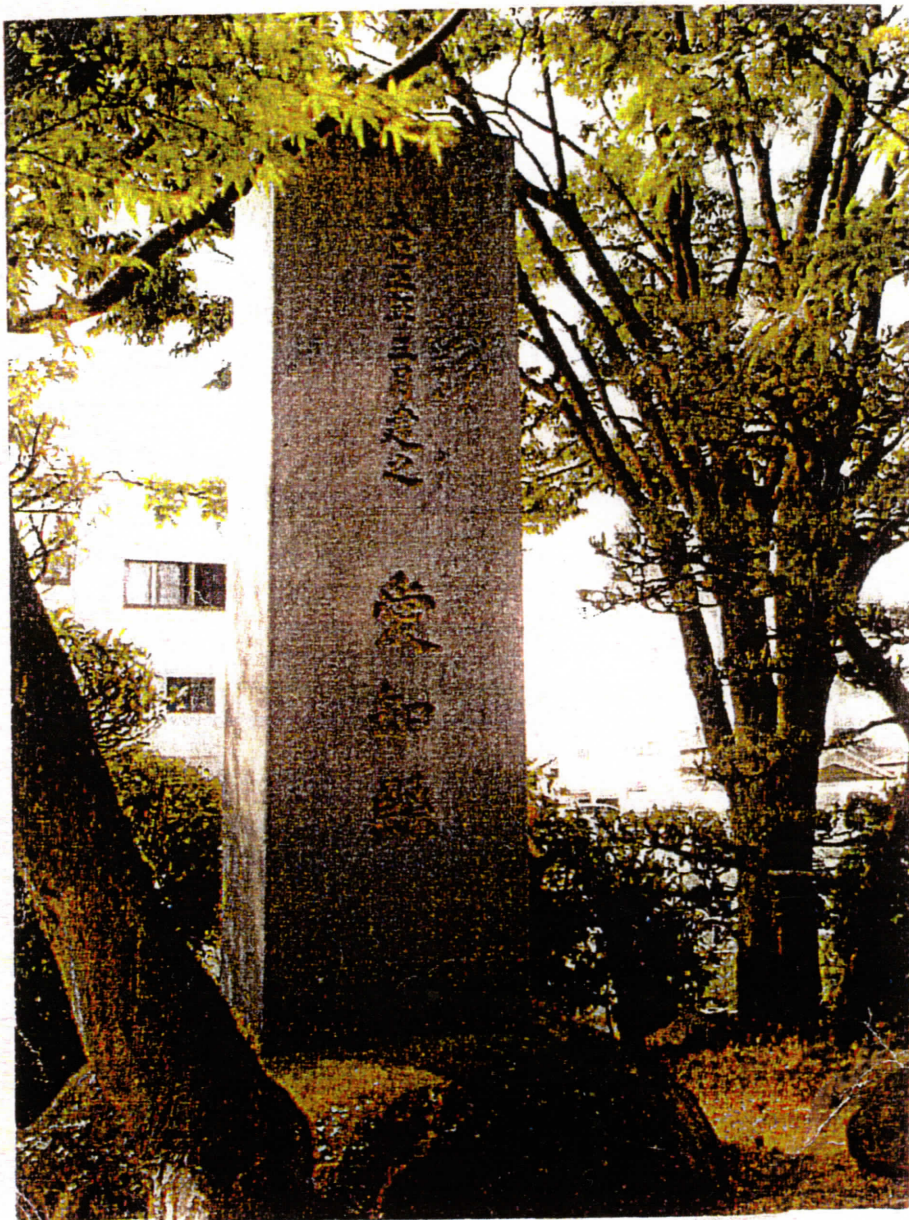


百周年記念

六ッ美

悠 紀 齋 田



六ッ美地区総代会

悠紀齋田保存会

岡崎市指定無形民俗文化財

田斎紀悠祭嘗大



保存会旗



伊和自由保存会

記念碑



大正7年 旧六ツ美村付近図

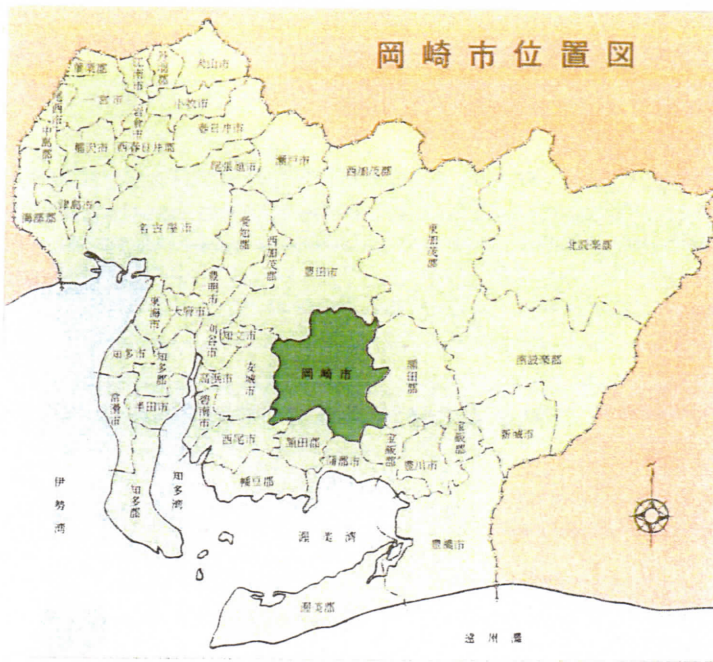


矢作川には、各所に中州があったことと、赤渋・合歓木・木戸に渡（川を渡る船）があり、美矢井橋がすでに架橋されていることと、安藤川本流が安藤町付近までであることが判る。

発行 大正7年3月25日

編纂 碧海郡役所

発行所 安城 日新堂書店



序

天地悠久の時のながれからすれば、100年は瞬時であり刹那的であるかもしれない。しかし、そこには時間を超えた枚挙にいとまがない自然と人間の営みがある。

1912（明治45）年、明治天皇崩御。大正天皇即位の大禮に合わせた大嘗祭から100年を経過しようとしている。その間、時世は大正、昭和、平成と3代に移ったが、世界と日本をめぐる情勢は随分様変わりをしている。

悠紀斎田の位置する郷土岡崎・六ッ美の地あっても

- ・ 明治天皇崩御。明宮親王即位、大正と改元（明治45）
- ・ 大嘗祭の勅定（大正3）
- ・ お田植式挙行（祓式・播種式・大祓式・供納・大嘗祭）（大正4）
- ・ 関東大震災（大正12）
- ・ 大正天皇崩御。攝政裕仁親王踐祚、昭和と改元（大正15）
- ・ 岡崎市市制施行（人口37,639人 戸数8,401戸）（大正5）
- ・ 盧溝橋事件。日中両軍の衝突（昭和12）
- ・ 日本とアメリカ・イギリスの交戦（太平洋戦争）（昭和16）
- ・ アメリカB29の編隊岡崎を空襲。三河地震マグニチュード7.1（昭和20）
- ・ ポツダム宣言受諾。終戦（昭和20）
- ・ 教育基本法と学校教育法の施行。学校体制の確立（昭和22）
- ・ 六ッ美村、町制施行（昭和33）
- ・ 伊勢湾台風襲う。中心気圧929.5ミリバール、岡崎の死者5（昭和34）
- ・ 昭和天皇崩御。平成と改元（昭和64）
- ・ 悠紀斎田80周年記念。香川県主基斎田と交流提携（平成7）
- ・ 岡崎市中核都市となる。（平成15）

等々と数多くの経験をしている。

歳月を数えるのに十年一昔ということばを使う。100年を何と呼んだらよいのだろうか。悠紀斎田の経営に参画してきた斎田の周辺も、いま大きく変わろうとしている。大型幹線道路衣岡線の開通と岡崎市の「悠紀の里」基本構想による市街地化への変貌である。

農耕民族の誇りと皇室文化の伝統を後世に伝えようとしてここに拙稿をもって経緯と経過を著わすものである。

百周年記念 六ッ美悠紀斎田

目 次

序

口 絵

天皇治下と社会の動き	P. 1
大嘗祭と悠紀斎田地	2
斎田勅定と先駆者	5
斎田地の造成	9
お田植式	12
斎田に関わる諸儀式	17
斎田耕作従事者	16
大祓・拔穂式後の経営管理	19
悠紀斎田を伝える松村松僊	24
斎田の組織管理と経費・予算	29
悠紀斎田奉賛会役員	30
斎田事務の終了	32
悠紀斎田の功労者	33
お田植まつり前後の交通事情	34
記念史料の保管	35
お田植まつり後の斎田経営	37
悠紀斎田80周年記念と主基斎田	39
80周年記念後のお田植まつり	42
街と村のたたずまいの変貌	43
衣岡線とコミュニテイ広場構想	52
竣工の悠紀斎田ゾーン	56
宮内庁訪問	57
岡崎市の財政事情	61
悠紀の里整備事業推進委員会	62
悠紀斎田100周年記念を控えて——記念事業実行委員会	64
地域交流センター「悠紀の里」開館	68

お わ り に

大嘗祭と六ッ美悠紀齋田

明治天皇（1852～1912）

治下の社会の動き



一世一元の制も定められ、版籍も奉還されて、幕藩体制は崩壊した。

それ以後、時の流れと世の中の有り様は、大河の奔流に似て留まることを知らなかった。

大正天皇（1879～1926）

大正天皇と系図



- 1869（明治 2）年 版籍奉還
- 1871（明. 4） 廃藩置県
- 1873（明. 6） 地租改正条例公布
- 1876（明. 9） 日清修好条規
- 1881（明. 14） 国会開設の勅諭
- 1885（明. 18） 内閣制度創設
- 1886（明. 19） 小学校令、中学校令、
師範学校令、義務教育
（4ヶ年）
- 1889（明. 22） 大日本帝国憲法発布
- 1890（明. 23） 第1回帝国議会開かれる
教育勅語発布
- 1894（明. 27） （～95）日清戦争おこる
- 1904（明. 37） （～05）日露戦争おこる
- 1905（明. 38） 日韓協約調印（日韓併合）
- 1912（明. 45） 明治天皇没（満61歳）
皇太子 嘉仁親王践祚

大正天皇 第123代天皇。明治12年月31日、明治天皇の第三皇子として誕生。名前は嘉仁、称号は^{ひろみ}昭宮。明治22年に立太子され、明治33年に公九条道孝の四女、節子（貞明皇后）と結婚。明治45年、明治天皇の崩御に^{みかど}践祚（ご即位）。大正10年に健康上理由で、皇太子裕仁親王（昭和天皇）摂政に任じ、療養生活に入られる。正15年12月25日、葉山御用邸で崩御れ、多摩陵（東京都八王子市）に葬らる。

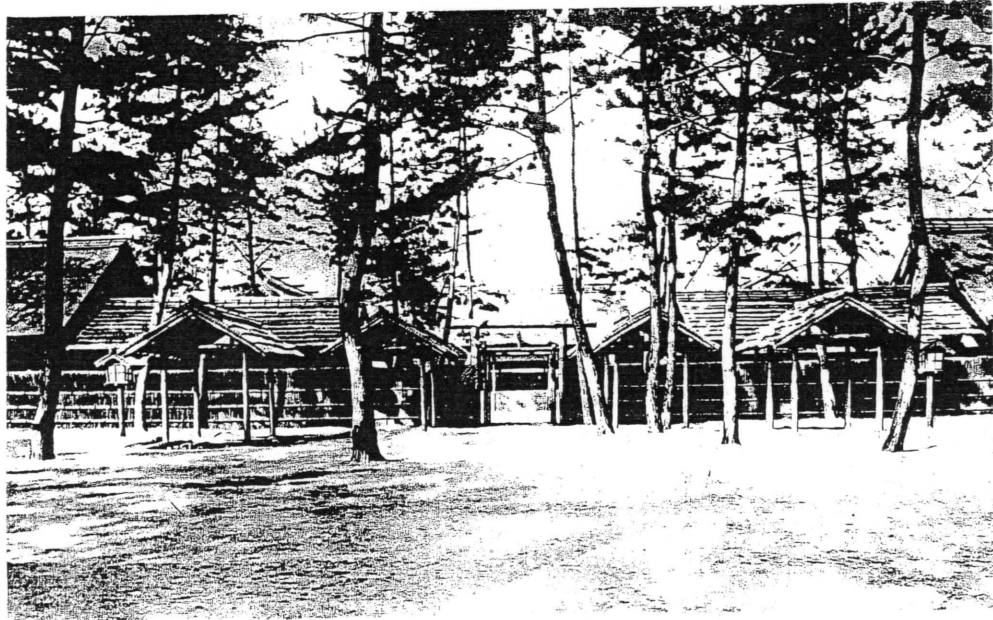
九条道孝——貞明皇后

昭和天皇
——
秋父宮雅仁親王
高松宮宣仁親王
三笠宮崇仁親王

明治天皇——大正天皇

天皇の即位と大嘗祭

大嘗祭



大 嘗 宮

明治天皇の逝去にともない即位された明宮親王（大正天皇）にとって必要なのは、「皇室典範」ならびに「皇極令」に定められた「大禮」の主宰である。

大禮とは即位後、初めての新穀をもって天神地祇に献穀され、自らも食される儀式である。古来、大嘗または新嘗と呼ばれたが、即位継承を象徴する大切な式典である。

明治天皇は明治4年11月17日に大嘗祭を行われている。このたびの大禮は、登極令公布後初めての挙行でありそれだけに関心を集めていた。

即位の礼ならびに大嘗祭については大正3年11月にとり行われることが、官報号外をもって報じられている。それに備えるためには「斎田の地」をいずれにするのか定めることである。

登極令第8条に「大嘗祭の斎田は京都以東・以南を悠紀の地方とし京都以西・以北を主基の地方とし、その地方は之を勅定する」とある。その定めにより斎田の地として香川県と愛知県が選ばれた。参考までに勅定された歴代の斎田の地をみてみよう。

天武天皇の即位672（天武1）年以降、近時では今上天皇に至るまで1325年の長きにわたって続けられたことがわかる。

悠紀地方の勅定

大嘗祭での「新米」や「新酒」を献上するのが斎田である。斎田の選定は皇極令第8条に「大嘗祭の斎田は京都以東・以南を悠紀の地方とし、京都以西を主紀の地方としその地方は之を勅定す」とあるに基づいている。その定めにより斎田の地として香川県と愛知県の両県が選ばれた。

斎田の地として変遷を辿ったのが資料「歴代斎田地一覧表」である

一覧すれば理解できるが、斎田の地は天武天皇の即位672（天武1）年にはじまり、今上天皇に至るまで連綿として続けられている。

悠紀の里に勅定された愛知県では手順をふんでしかるべき圃場を選ぶ必要があった。1014（大正3）年、斎田候補地を求めて愛知県は県内務所長名をもって「必親文書」を各郡長に送った。斎田候補地の推薦に応じて、県下の各郡長はそれに応じている。それに応じた市町村は次のようである。

資料 歴代斎田地一覧表

代	天 皇	悠 紀 国	主 基 国
40	天 武	播 磨（兵庫県）	丹 波（京都府）
41	持 統	播 磨（兵庫県）	因 幡（鳥取県）
42	文 武	尾 張（愛知県）	美 濃（岐阜県）
43	元 明	遠 江（静岡県）	但 馬（兵庫県）
44	元 正	遠 江（静岡県）	但 馬（兵庫県）
45	聖 武	備 前（岡山県）	播 磨（兵庫県）
46	孝 謙	因 幡（鳥取県）	美 濃（岐阜県）
47	淳 仁	丹 波（京都府）	播 磨（兵庫県）
48	称 徳	美 濃（岐阜県）	越 前（福井県）
49	光 仁	三 河（愛知県）	因 幡（鳥取県）
50	桓 武	越 前（福井県）	備 前（岡山県）
51	平 城	伊 勢（三重県）	備 前（岡山県）
52	嵯 峨	三 河（愛知県）	美 作（岡山県）
53	淳 和	美 濃（岐阜県）	丹 波（京都府）
54	仁 明	近 江（滋賀県）	備 中（岡山県）
55	文 徳	伊 勢（三重県）	播 磨（兵庫県）
56	清 和	三 河（愛知県）	美 作（岡山県）
57	陽 成	美 濃（岐阜県）	備 中（岡山県）
58	光 孝	伊 勢（三重県）	備 前（岡山県）
59	宇 多	近 江（滋賀県）	播 磨（兵庫県）
60	醍 醐	近 江（滋賀県）	丹 波（京都府）
61	朱 雀	〃	丹 波（京都府）
62	村 上	〃	備 中（岡山県）
63	冷 泉	〃	播 磨（兵庫県）
64	円 融	〃	丹 波（京都府）
65	花 山	〃	丹 波（京都府）
66	一 条	〃	備 中（岡山県）
67	三 条	〃	丹 波（京都府）
121	孝 明	近 江（滋賀県）	丹 波（京都府）
122	明 治	甲 斐（山梨県）	安 房（千葉県）
123	大 正	愛知県（三 河）	香川県（讃 岐）
124	昭 和	滋賀県（近 江）	福岡県（筑 前）
125	今 上	秋田県（出 羽）	大分県（豊 後）

斎田候補地の選定と斎田地の決定

1014（大正3）年愛知県は斎田候補地を求めて、県内務所長名をもって候補地推薦の「必親文書」を各郡長に送る。

斎田候補地に応募した市町村

第 1	東春日井郡志段美村	第 7	碧海郡六ッ美村
第 2	西春日井郡北里村	第 8	額田郡幸田村
第 3	丹羽郡楽田村	第 9	南設楽郡千郷村
第 4	羽栗郡羽栗村	第 10	宝飯郡一宮村
第 5	中嶋郡稲澤町	第 11	渥美郡野田村
第 6	知多郡阿久比村		

斎田候補地11ヶ所から ○春日井郡志段美村 ○西春日井郡北里村 ○中嶋郡稲葉町 ○碧海郡六ッ美村 ○南設楽郡千郷村 ○渥美郡野田村の实地調査を内務部長、理事官、技師らに命じた。

斎田候補地

1. 西春日井郡北里村大字小針	大野松蔵所有田
1. 中嶋郡稲澤町稲澤	山田祐一所有田
1. 碧海郡六ッ美村大字下中嶋	早川定之助所有田

現地の实地踏査に基づき3ヶ所が適任であるとして農務省に報告された。

号 外

来る11月13日行われるべき大嘗祭の悠紀斎田を左の通り本日定む	
大正3年3月6日	
愛知県知事 松井 茂	
1. 斎田の所在	愛知県碧海郡六ッ美村大字中嶋字上丸の内
2. 斎田の面積	4段歩
3. 斎田の所有者	愛知県碧海郡六ッ美村大字下中嶋59番戸
	平民農 勲7等 早川定之助

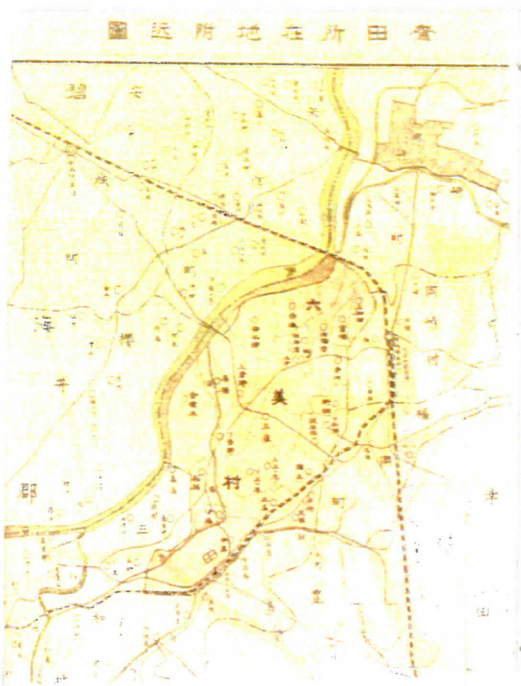
調査は所在町村の一般状況である財政・産業・教育・民俗又所有者については経歴・家計・産業職業・町村民との関係・自小作関係や付近の民情などにも及んだ。
結果、3月6日農務省次官より知事宛に斎田決定の電報がある。

斎田の勅定のころのむらのたたずまい

そのころむらの生業はどうだっただろうか。

六ッ美村誌（大正15年刊）はそれについて、「村内中島の一部は往古より商工家百有余ありて村内の之が中心となれり。明治初年までは毎月1・16日市場相立ち魚類・雑貨販売ありて遠近の商人集まり賑わいたりき」と述べている（P. 116）

近在の集落は農業を経営したが、零細であった。



明治33年耕地整理法が發布される。

本村大字中島は全国に率先してこの業を起し、明治33年10月、石川・静岡県の先進地を視察し明治34年5月に起工する。

後年、大正3年に「斎田決定示達式」が愛知県庁知事室で行われるが、「斎田決定通知書」の中に「早川龍介」と「鶴田勝蔵」両氏の偉大な力を称え、斎田の決定にあたり明治37年4月「下中島耕地整理が鶴田勝蔵氏の力により完了し近代的農業基盤が築かれたこと」が記述されている。このあたりに六ッ美の農業先駆者の歩みを垣間見ることができる。

鶴田勝蔵と耕地整理・河川改修



1843（天保14）年10月生～1908（明治41）年7月没

碧海郡中島村で生を受ける。資性温厚篤実であり文久元年9月、村民の信頼のもとに18歳で庄屋となる。

以後村政に従事して40有余年。自費を投じて藍の栽培、蚕業の発達を図り、窮民救済に努める。

かたわら、六ッ美村から幡豆郡にかけ、耕地整理と安藤川改修に人生のすべてを賭け、この地の水田が二毛作にできるようになった。（額田・碧海・幡豆3郡10ヶ村反別925町歩）

明治39年3月、藍綬褒章を賜わるが、公事に尽くした功績により賞を受けること80回に及ぶといわれる。

大正3年4月1日、八幡社において、鶴田勝蔵氏の力により下中島耕地整理が完了したことと、そのことがひいては斎田決定の礎になったことの報告「鶴田勝蔵翁霊前報告祭」が営まれた。

早川龍介（1853～1933）

——大嘗祭に献穀・供納の国会議員——

衆議院議員、岡崎市名誉市民

1853（寛永6）年8月碧海郡中島村で祖父以来、旗本小笠原伊勢守所領の代官を務めた早川家の長男として生まれた。

9歳の時、父に死別した後、14歳で代官見習いとなった。16歳の時に明治維新となり静岡大学校に入学する。

明治4年帰郷し、翌5年額田郡第2大区3小区戸長となる。地租改正に尽力し9年には愛知県14等出仕となる。

13年県会議員に当選し、4期を務め、副議長・郡部会副議長などを歴任した。明治18年農商業視察員としてアメリカに渡った龍介は帰国後、アメリカで痛感した耕地整理の実現に尽力する。



世界や地方自治に活躍した早川龍介

それとともに、明治5年に愛知県に統合された額田県の再地運動に力を入れた。22年3月「三河旬報」を発刊。請願・建白運動を展開後、23年第1回衆議院選挙に第8区より立候補し当選している。

以来、1920（大正9）年の第14回総選挙までに10回当選している。代議士に終止符を打った後、政友会・憲政会・同志会・民政党に属し、第4回内国勸業博覧会委員・大正博覧会・平和記念事業博覧会審査官や水難救済会評議員・愛知県農工銀行委員などの要職を歴任した。

1915（大正4）年大正天皇の即位に伴う大嘗祭で悠紀斎田が六ッ美村大字中島地内に決められた際、全国的知名度から村長に推され、献穀供納の大任を果たした。翌5年勲4等瑞宝章を受ける。

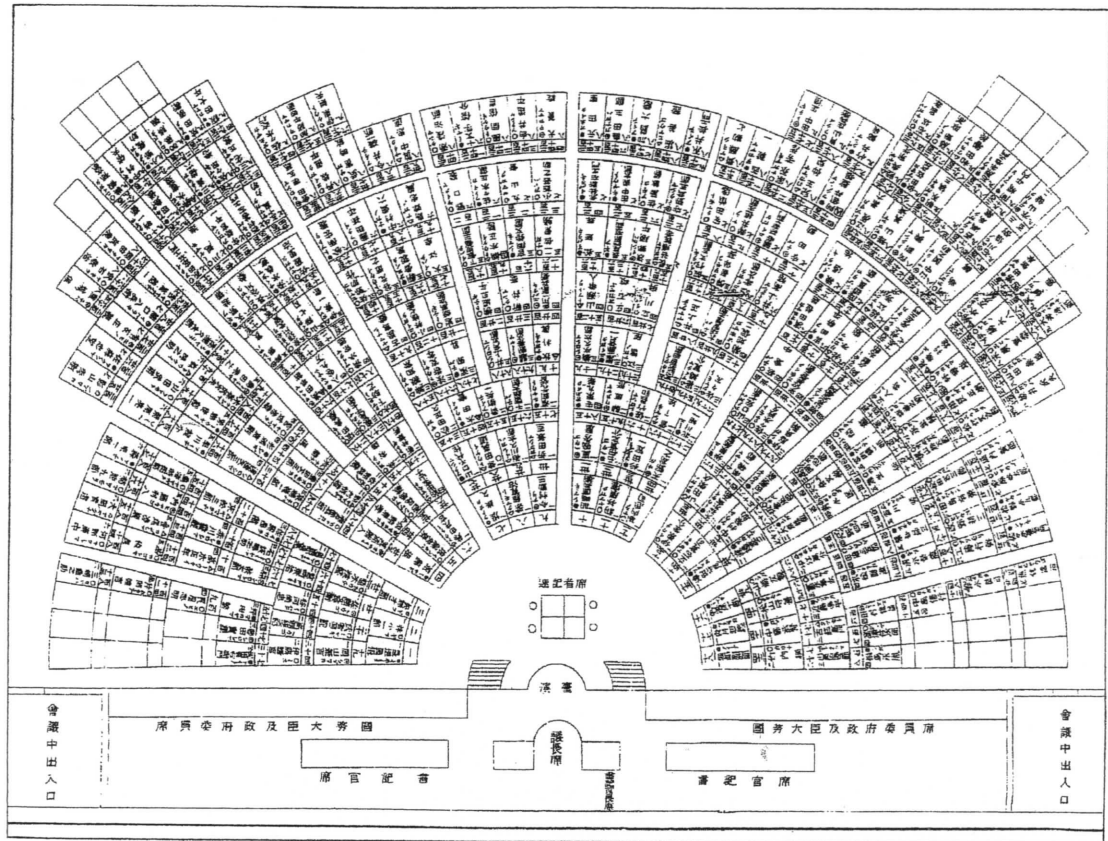
漢詩・和歌・俳句・絵画・など多趣味で悠齋・衣水・華舟等と号した。

1933（昭和8）年死去、享年81歳

早川龍介翁の略年譜

- 一 嘉永 六年（一八五三） 碧海郡中島村にて出生
- 一 明治 五年（一八七二） 額田郡第二大区三小区戸長となり地租改正に尽力
- 一 明治十三年（一八八〇） 県会議員に当選以後四期を務める
- 一 明治十八年（一八八五） 渡米 帰国後耕地整理に尽力
- 一 明治二十三年（一八九〇） 第一回衆議院選挙に当選 以後第十四回選挙まで十回当選
- 一 大正 四年（一九一五） 大嘗祭に際し悠紀斎田の御神米を奉獻するに尽力
- 一 大正 五年（一九一六） 勲四等瑞宝章を授与される
- 一 昭和 八年（一九三三） 逝去 享年八十一歳
從五位に叙せられる
- 一 昭和四十一年（一九六六） 岡崎市名誉市民に推挙される

第1回帝国議会について
明治23年11月25日召集



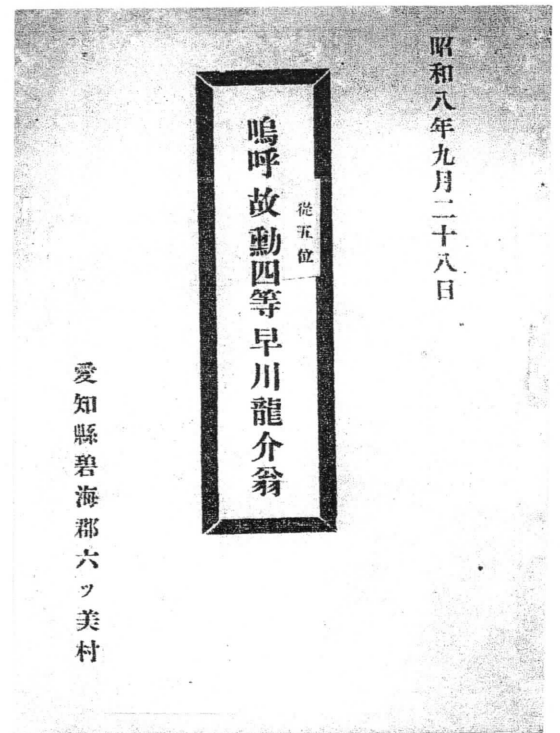
▲第1回議会 衆議院議席表



大正4年5月4日農商務次官「上山満之進」に、
斎田を羽織袴姿で案内する龍介



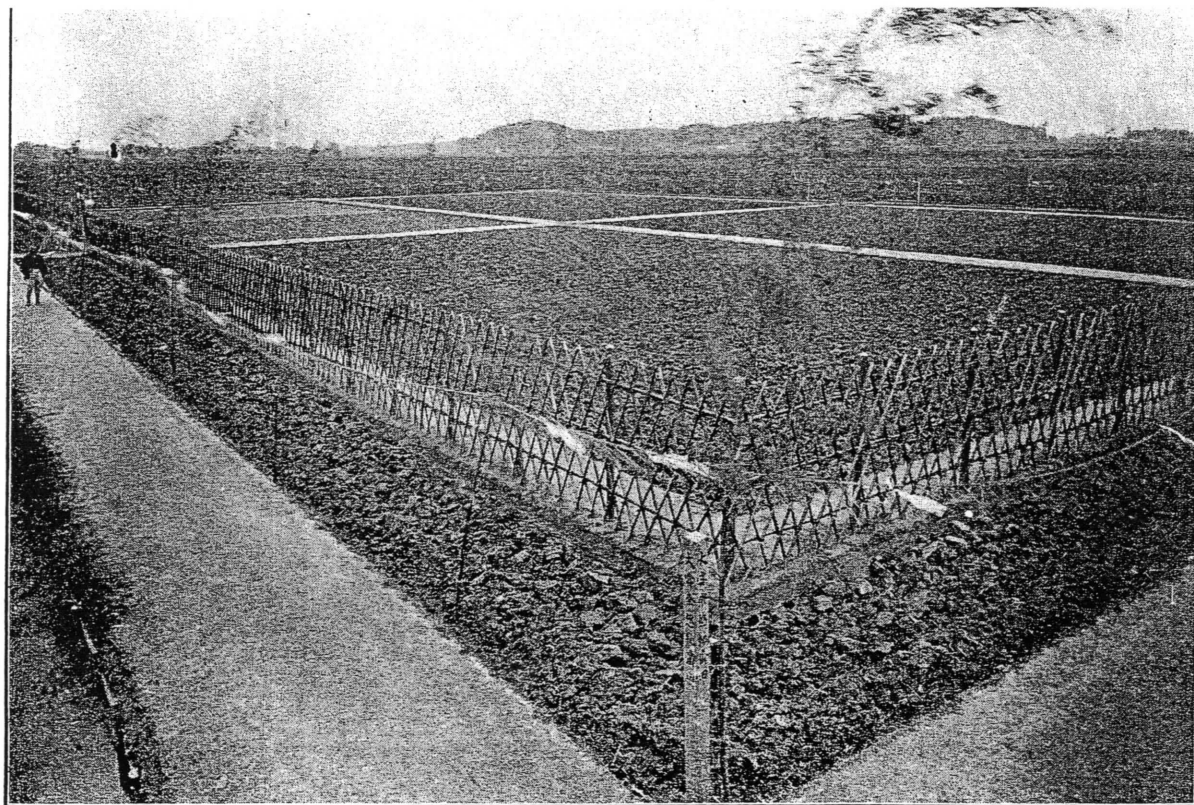
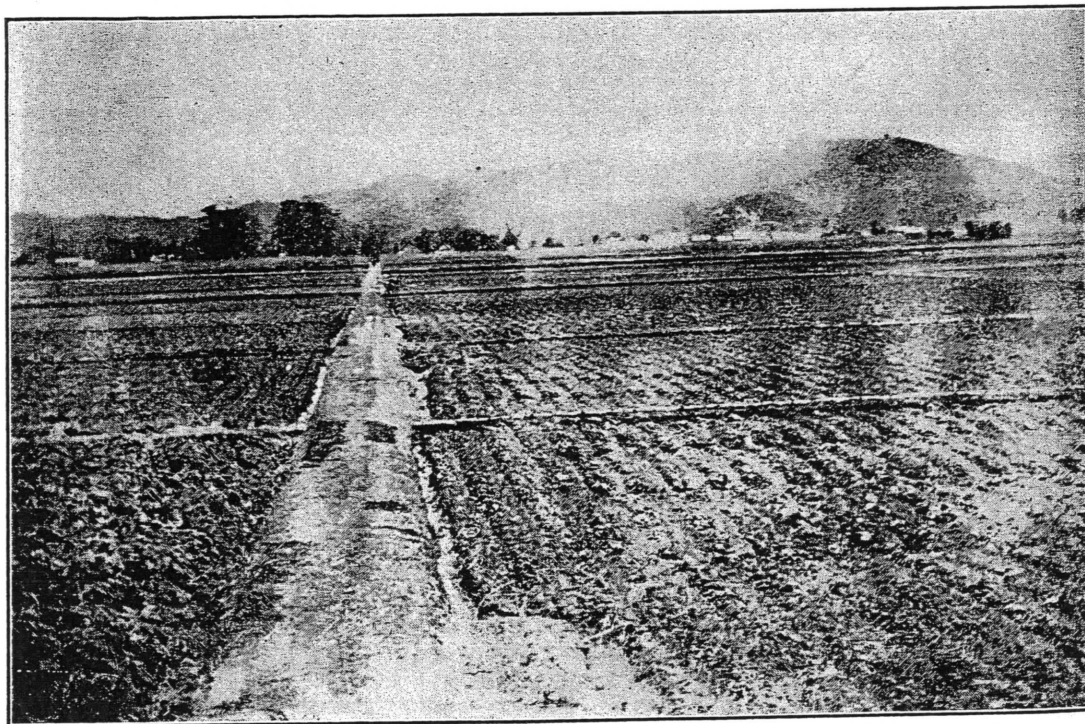
矢作川の高橋用水取水口を調査する龍介ほか悠紀斎田関係者



同日六ツ美村村葬が神式で執り行れた

斎田地の造成と準備

斎田候補地の選定と決定がなされると、候補地には斎竹が立てられ注連縄が張り巡らされて標柱が立てられた。斎田事務所の建設・斎田への出入りの際のお祓い・隣接の高橋用水の竹柵内への汚物の搬入禁止など、斎田が神聖なる地であるとの意識の高揚が払われた。

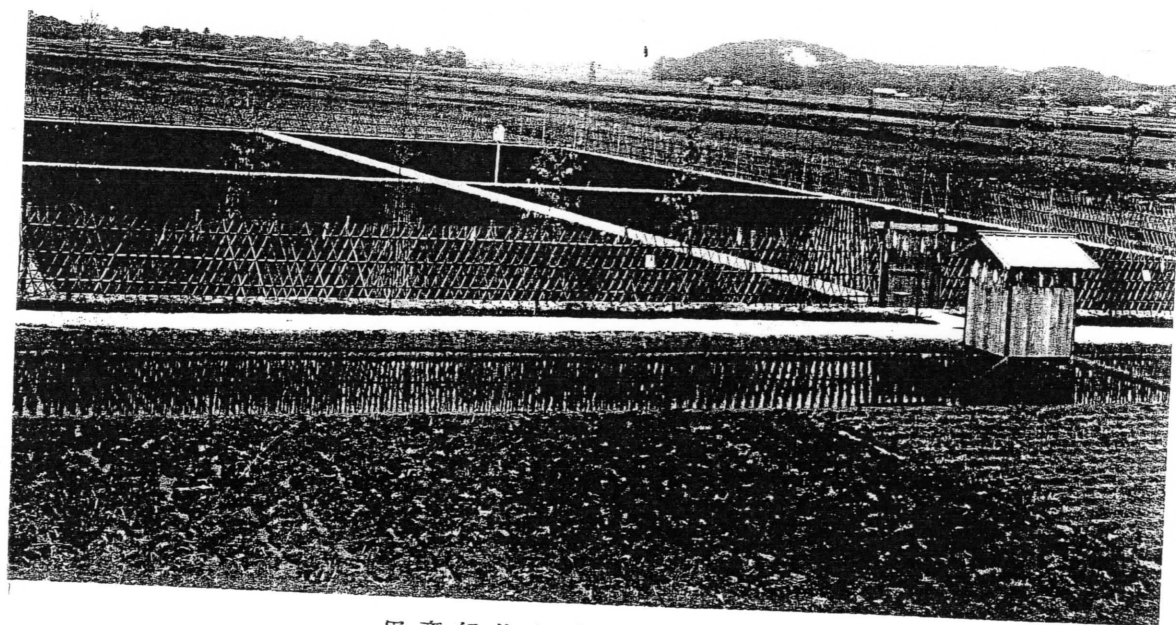


大正三年區劃確定

一方、六ッ美青年会員・在郷軍人会員の昼夜交替による斎田の監視等奉仕と啓蒙が図られると、ともに斎田の奉仕者である早川定之助は家族と飲食を別にして沐浴などしてその日に備えた。

そこで1014（大正3）年、忌むべきことが起った。昭憲皇太后（明治天皇の御妃）のご崩御である。皇室の規則では「諒闇中」（天皇が喪に服される期間。満1年とされる）は即位の礼に係わる大嘗祭は行わないという定めがあり、それに従わざるを得なかった。

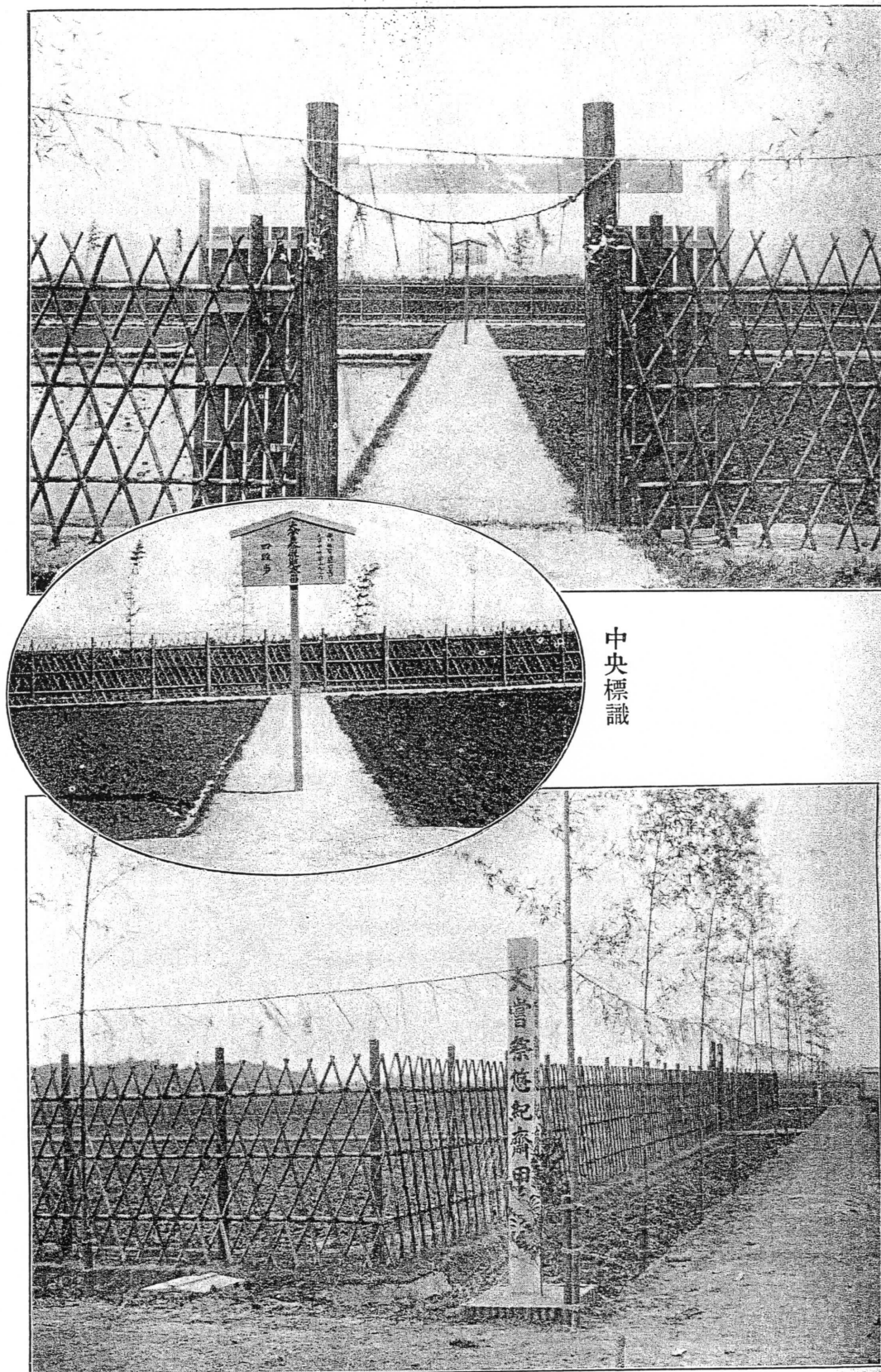
それにもかかわらず、宮内省より「即位の礼と大嘗祭は行わないが、斎田は勅定どおり続ける」という通達があり、関係者一同竹矢来・標柱・注連縄・斎竹・通路などの保全を期してひたすら忌のあけるのを待ったのである。



大嘗祭悠紀斎田

早川定之助 所有

門 南



中央標識

四隅標識

再び記すが齋田の所在は愛知県碧海郡六ツ美村大字中嶋字上丸の内であり、齋田の面積は4反歩である。

お田植式

1915（大正4）年6月5日。待望久しいお田植式が斎田地で行われた。

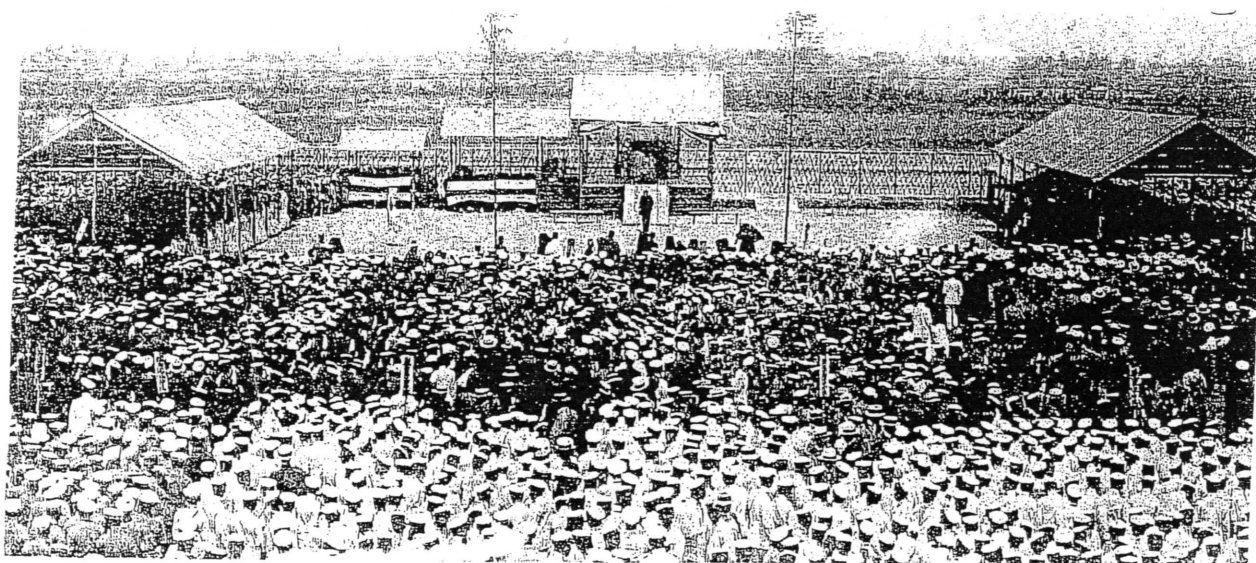
当日の自然の情景は、「矢来の暗雲暫く晴れて附近の山野翠緑いよいよ濃やかに白砂潔く斎竹に薫風わたる」とある。

さて、お田植式の会場であるが、斎田両隣の地をもって式場にあて、正門に接して神籬を設け、屋敷並びに四壁は青簾を編んで之を囲んでいた。その前方に祭壇があり、之に南接して方三間の式壇が設けられていた。祭壇及び式壇は何れも板葺きであり式壇の東の祓所に伶人席及び神饌所が設けられた。祭壇南方約2,000坪の麦は刈り取られ、地均しが行われ一般参列者の場所とされ斎田にふさわしくしつらえてあった。

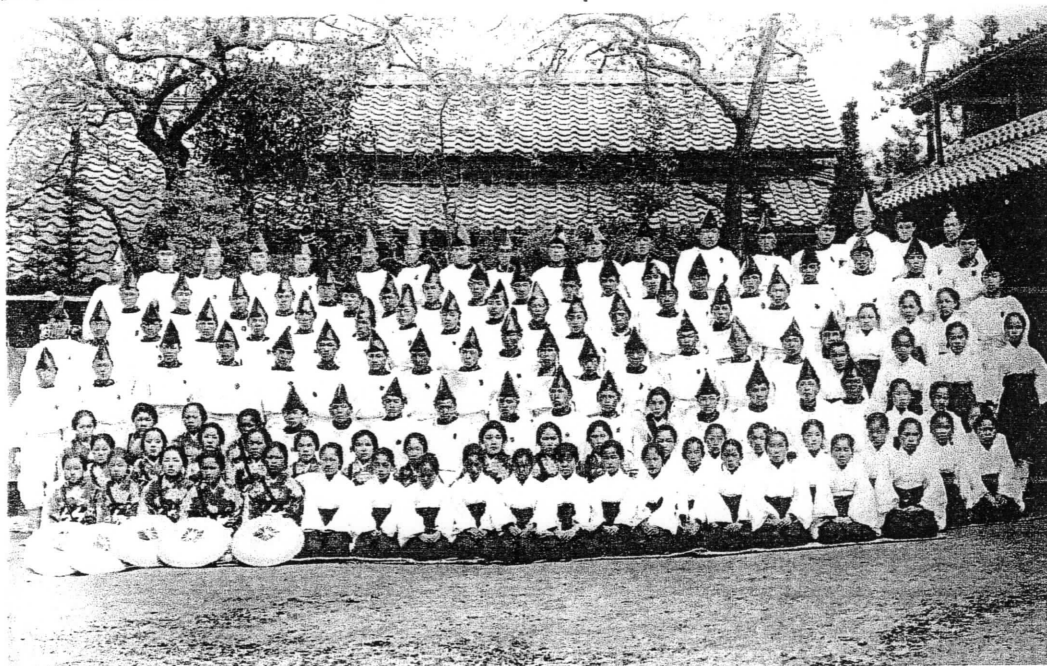
式は定刻10時に始まる。祓主の祓詞、降神の儀、神饌の伝献等に次いで祝詞奏上、玉串奉奠と続くが、来賓として愛知県知事、農商務大臣代理参次官・主基地方長官代理等公人の姿があるのが目を引いた。

玉串奉奠の後、斎田所有者と植女従事者が斎田に進み植付けの式を行う。早乙女20余名は式場で式服を脱ぎ耕作服となり、菅笠を冠り稲苗を捧持して、耕作従事者男子30余名とともに青田に入り田植唄に合わせて苗を植え田植踊りに加わる。田植踊りはお田植まつりに参加して、滞りなく植付けの式を奉仕した植女の歓喜の心情を表現したものである。

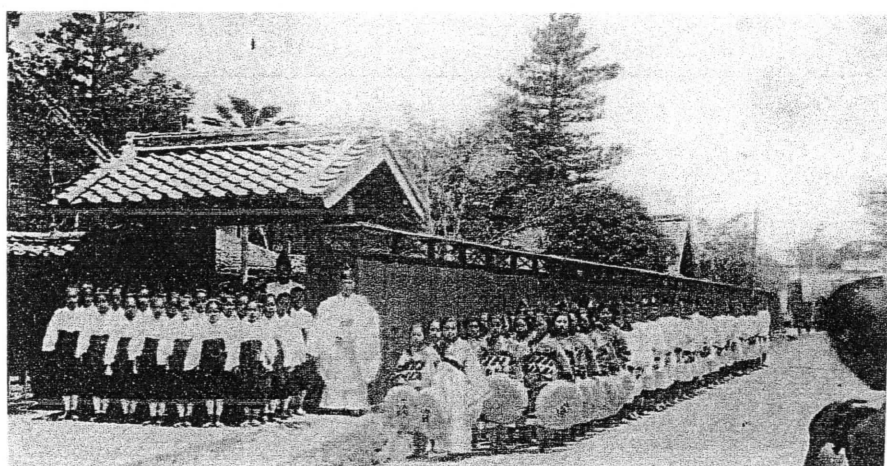
お田植まつり式場の全景



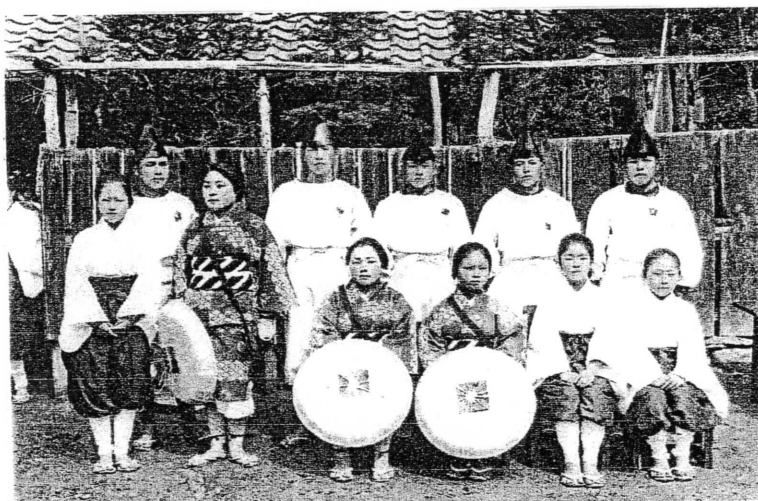
斎田耕作従事者の状況



奉耕者記念写真（斎田所有者宅）



奉耕者と斎田所有者早川定之助と所有者宅前で記念写真



奉耕者衣装発表写真

斎田耕作従事者の選定要件

- (1) 人選は、資産、教育、素行、家庭、経歴、健康など審査項目を設定した。
- (2) 六ツ美村を始め、碧海郡各町村（15町村）から122人（男92名、女30名）が選ばれた。男子奉耕者最年少15歳、最年長者45歳、早乙女は17～18歳の者が大多数である。

町村別斎田耕作従事者の状況

安城町	9名	旭村	3名	矢作町	9名	知立町	3名
依佐美村	6名	明治村	4名	上郷村	3名	刈谷町	4名
高浜町	2名	桜井村	5名	うち（女）1名		男	92名
新川町	2名	六ツ美村	62名	高岡村	5名	女	30名
棚尾村	1名	うち（女）29名		富士松村	4名	合計	122名

六ツ美村の斎田耕作従事者の氏名及び出身大字（町）

氏名	大字（町）	氏名	大字（町）	氏名	大字（町）	氏名	大字（町）
太田登喜次	土井	太田恒太郎	土井	杉崎半太郎	土井	太田佐市	土井
早川柳治	中島	石川留吉	中島	畔柳八十一	中島	早川幸之助	中島
本田九平	中島	早川文佐衛門	中島	村山定治	中島	杉田甚松	中島
手島半次	中島	早川資郎	中島	杉浦庄八	中島	山下兵次郎	中島
畔柳一良	井内	新実淳二	赤渋	新実彦次郎	赤渋	高木政次郎	上青野
萩原七五三太郎	上青野	牧野英逸	下青野	瀬戸春吉	高橋	磯村仁太郎	合歡木
天野貝松	合歡木	成瀬吉太郎	福桶	杉浦磯右衛門	安藤	松野友市	安藤
太田伊太郎	定国	磯貝斧三郎	国正	小林信次郎	坂左右	太田要一	上三ツ木
山崎康一	下三ツ木	早川シナ	中島	早川くめ	中島	杉浦こよ	中島
本田かと	中島	土屋ヨネ	上三ツ木	山崎つう	要調査	竹本キン	合歡木
蜂須賀チヨ	合歡木	太田てい	定国	河口チエ	定国	杉浦カズ	安藤
志賀系い	下青野	野々山志げ	中村	渡辺ゆき	中島	犬塚カズ	法性寺
犬塚やつ	赤渋	村上シュウ	牧御堂	杉田とう	下和田	平井カズ	正名
加藤スミ	正名	野々山けん	中村	近藤ちよ	中村	本田静	野畑
八田ヨシエ	中之郷	大久保よし系	宮地	細井さわ	在家	星野レエ	坂左右
本多ひさ系	中之郷	蜂須賀リウ	上和田				

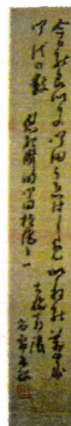
大正悠紀齋田

御田植唄

- ◇今日のよい日の御田植はじめ
作詞 岡部 譲
稲の萬歳（品種名）御世の數
◇やがて世界のむつみの種も
悠紀の御田より出るやうに
- ◇菅の小笠にそらいのきもの
作詞 早川 龍介
苗もそろへば氣も揃ふ
- ◇三河萬歳萬歳稲の
穂に穂出るよに祈らむしよ
作詞 山崎 延吉
◇早苗うゑましよ眞すぐに植ゑう
すぐは神様およろこび



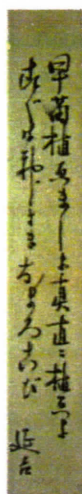
一番 熱田神宮 宮司 岡部 譲



二番 六ツ美村長 早川 龍介



三番 愛知県農林学校長
山崎 延吉



山崎延吉の短冊

早川龍介の書



至誠

大正五年日暮年杪